

‘お κόσμος, αλλοίωσις. ο βίος, υπόληψις.’

23号 1991.1.15

文・編集・発行

恋 怪子

WORDS: GARY MOORE



ブルースの中には音楽のすべての世界がある。(中略)
ブルースは極度の集中を要求されるから、多くの人が
プレイできないのかもしれない。本気で取り組み、テフニック
のことなんか忘れて、スケールのことも考えずにやらなきゃ
いけない...。考えてしまうと音楽の流れも止めてしまう
からね。

Guitar magazine 1990年5月号より

LIVE: ティラノザウルス 1990.12.28 渋谷ラ・ママ
1990.12.31 渋谷ラ・ママ

12月28日 ラ・ママ

「ロンドンブーツ」というイベントで、HARLEM JOKERS, THE YELLOW MONKEY, DOLLS, NOBS, ティラノザウルス、それとびいりて、2曲やったラビサイルで6バンド。はじまったのが開演時間より30分以上おくれ、バンドとバンドの間に15分くらい間があって、そして、ずるスペースがほとんどない。最初にやった HARLEM JOKERS をきいただけで、もうくたびれてしまって、次の THE YELLOW MONKEY のときは、床になんとかずって、居眠りをしていううちに終ってしまった。次がとび入りのラビサイル。ヴォーカルが魅惑的で、ギターもよくて2曲だけだったけど楽しんだ。そのあとが DOLLS と NOBS。どちらもあまりおもしろくない。もうくたびれて...。立ちっぱなしで足はつりそうだし、タバコの煙で喉はガラガラ、空腹のせいで胃が痛くなってきて、この日はもうあきらめて途中で帰ろうかと何回も思ってたけど、なんとか我慢をして最後のティラノザウルスまで待った。待ってよかった!! 40分くらいしかやらなかったけど、もの足りなさは全く感じなかった。言葉では決して語られることのないものが音楽を通じて伝わってきた。自分が生きていること、この瞬間を生きていることを実感した。11月10日のラママのライブでは「自分が死んでいる」と感じたのに、不思議で幸福。「ダンプリン・タウン」というカバー曲と「舌を出せ」という新しい曲がとくによかった。

12月31日 ラ・ママ

大晦日のイベントで8バンドやったけど私が見たのは LOVE SICK LOVERS, HOBOS JUNGLE, THE BARRETT, らくがき, DOLLS, ティラノザウルス。DOLLS はパワフルでよかった!!! 最後がティラノザウルスで一曲目の「ダンス・ママ」で歌と演奏があわなくてやりなおい。ああ、終るときはなんかやってきたけど...。年越しそばの匂いはするし...。ま、イベントだからいいことにしよう。1年の最後の日にティラノザウルスがきけたのだから、よかったということにしようか...。な?

ロンドンブーツの4人
3/2 バウスワッパー
前売 ¥2,500
当日 ¥2,800
名古屋(4人)と大阪(3人)でもやるんだって。行こう!



ARTIST: 支那 1990'S LAST BAR SHOW (1/20 HEAVENS'S DOOR) で BELLETS, RIP VAN WINK, THE VANILLA, 外丸 (THE BARRETT) のヴォーカルなど若手たちの中で、RIP VAN WINK がいちばん苦くて、いちばんピアノを感じた。私の見たバンドの中で、RIP VAN WINK と THE VANILLA がよかった。RIP VAN WINK + 支那 支那 = 三つでいい。

LIVE: ブルーハーツ 1990.11.18, 11.19, 11.20 NKホール
1990.12.19 静岡市民文化会館

11月18日 NKホール
「未来は僕らの手の中」「爆弾が落ちる時」とやって「NO, NO, NO」になった。髪の毛が逆立つような鋭い感動の中にいた。むき出しの私の魂がステージの上にいるようだった。それからつぎつぎと曲がすすんでいくあいだ、ずうと、今までのこと、いろんなことが心の中からはきあがってきて、涙が出たり、笑顔戻りになったり、呆然としたり、突にゆたかな人生を生きていられた。「青空」までがとて長く感じられた。「Hのブルース」になった。ギンギンのブルースに身も心もゆたかながらステージの上のヒロを見ていて、この人は私が今まで生きてきた証拠だ、この世に存在していた証拠だ、と思えてきた。私自身の中には、私が生きてきた証拠はないけど、ヒロは私が生きてきた証拠だった。いままでずうと生きてきたのは、ほんとうだということだ。そのほんとうを実感した。

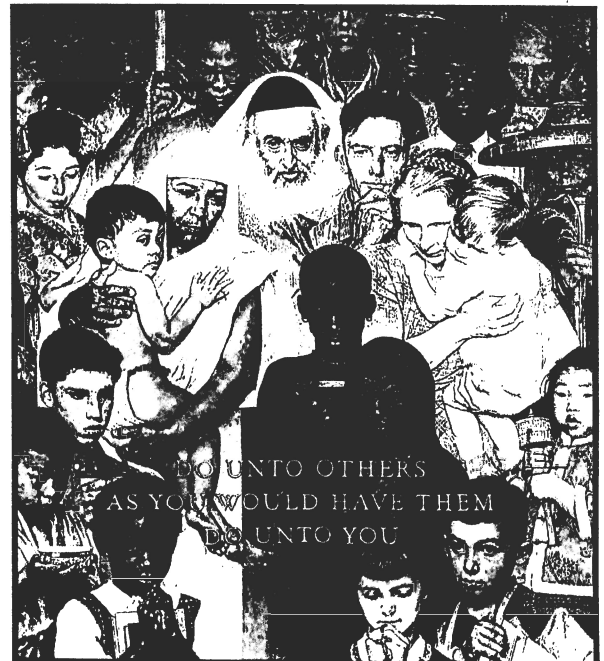
11月19日 NKホール
はじめて何曲かは全くなんにもといてこない。ヒロのハーモニカがはいる「脳天気」。ハーモニカをきいたとたんにはじけ込んでくるものがあった。そして、それから何曲かはきけたけど、「Hのブルース」もそんなによくなくて...。「トリン、トリン」になったら一気に気持ちが高まって、立てられなくなって椅子にすわってしまった。それがアンコールのおわりまでつづいた。

11月20日 NKホール
「未来は僕らの手の中」「ハンマー」「爆弾が落ちる時」「NO, NO, NO」といった歌ではじまった。つまらないな。俺のゲーム、まあまあ。「悲しい噂」でベースにひきつけられた。歌、ギター、ドラム、ピアノの4人は一つの団子みたいになっていて、4人がかりでもベースにかなわない。よくみると、他の4人の音よりすこし遅れているみたいに見える。けれどもそれがゆたかな音楽になっている。ステージの上を見ると、ベースだけが音楽につつまれているように見えた。それからベースばかり見ていた。きこえてくるのもベースの音ばかり。

12月19日 静岡市民文化会館
アンコールの2曲目「電光石火」の途中で会場を出た。あつという間に「人にやさしく」になってしまった。はじめて何曲かはまあまあだったのだが「青空」「Hのブルース」あたりから音楽がどんどんちいさくなって、まいてる方にといてこない。ステージの上だけのちんまりした演奏と歌。「イメージ」からすこしおもしろいけど...。どうにかきけたのは「情熱の薔薇」だけ。

A HAPPY NEW YEAR '91

DO UNTO OTHERS AS YOU WOULD HAVE THEM DO UNTO YOU



DO UNTO OTHERS AS YOU WOULD HAVE THEM DO UNTO YOU

ティラノザウルスのライブ: ラ・ママ(ワンマン)4日まで、毎日15時にワンマン、やること。